

授 業 概 要

Syllabus

2019
【1 年次】

富良野看護専門学校

1. 基礎分野

論理学

情報科学

社会学

心理学

教育学

家族社会学

英語 I

保健体育

教 科 目 名	論理学	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者		講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目的：適切な日本語表現による文章を構成する力及び自己の主張を論理的に表現する技能を身につけると共に、ものごとを論理的に考えることができる態度を身につける。</p> <p>目標：1.文章を構成する基本因子を理解する。 2.日本語文の論理、文章の構成とその手順を理解する。 3.論理的な文章で自己の考えを表現できる。 4.適切な日本語表現によるレポート、論文を書くための基本的能力を養う。 5.良い文章に触れることで感性を養う。</p> <p>内容：1.文章構成の基本 2.文章における論理性 3.テーマに沿った文章作成 4.レポート、論文の基本的な書き方 5.文学作品の鑑賞</p>
授業の形式	基礎的な論理的思考力を養います。また適宜小論文を書いてもらい、それを添削します。それによって適切なレポートや論文を書くための基本的なテクニックを身につけていただきます。
成績評価の方法	レポート（自由記述小論文）によります。 論理的な思考力や日本語としての適切な表現力を身につけたかどうかを判定します。
教科書・参考書	適宜プリントを配布します。
メッセージ	だれでもある程度の論理的思考力は持っています。それをより深く理解し、また文章として表現できるようにするためにちょっとしたトレーニングをします。 肩肘張らずにリラックスして取り組んでみてください。

回	授業主題	授 業 内 容
1	論理学とはなにか	高校まではなかった「論理学」という科目がどのようなものか、大まかに説明します。
2	議論の流れと接続表現	論理的に筋道の通った議論を読み書きするために「それゆえ」「しかし」などの接続表現に注目します。
3	接続関係の図示	通常の日本語の文章からは読み取りづらい議論の流れを把握するための助けとして、議論の一部を記号で図示する方法を考えます。
4	記号論理に触れてみる	真理表や論理結合子など狭義の論理学について少しだけ触れてみます。文法とは発想を異にする主語と述語という考えにも注目します。
5	批判的思考力について	感情的対立や全否定ではない建設的議論のための批判的思考というものについて考えます。
6	議論の組み立て、論文の書き方	論文と作文の違い、議論の組み立て、パラグラフ・ライティングなど、論文（論証する文章）の基本についてお話しします。
7	論証の2つの形式（演繹と推測）	厳密な論証である演繹と、よりゆるやかな論証である推測（仮説形成）についてお話しします。
8	価値評価	客観的事実の記述を越えた「～はよい」あるいは「～すべき」といった価値判断を含んだ論証について考えます。
9	論理的テクニック I	（4）で触れたような記号論理的発想を通常の日本語の文章にどのように応用できるか考えます。まずは、否定と連言と選言です。
10	論理的テクニック II	（9）のつづきで、条件法についてお話しします。逆・裏・対偶という発想を紹介します。
11	論理的テクニック III	つづいて、消去法と背理法というテクニックを紹介します。
12	文学作品にヒントを見つけよう	いくら論理的な内容でも、読みやすさや表現としてのまとまりもないといけません。そのためのヒントを文学作品に見つけましょう。
13	日本語表現のハウツー	読みやすい論文を書くために、文の区切りかた、句読点の打ちかたなどの基本を学んでいきます。
14	反論のテクニック	批判的思考力の根幹にある「あえて反論する」（別の発想が出来るのではないか思いめぐらす）というテクニックを考えます。
15	正しく考えるために	全体のまとめです。また、以上15回の中で3回ほど小論文を書いていただき、それを添削します。

教 科 目 名	情報科学	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者		講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目的：情報の概念及び情報の科学的処理の基本を理解し、コンピューターを利用した情報処理を学ぶ。</p> <p>目標：1.情報の概念を理解し、情報を科学的にとらえることができる。 2.情報処理の基本と処理の方法を理解する。 3.コンピューターの基礎知識を学び、基本的操作及び情報処理の実際を理解する。</p> <p>内容：1.社会と情報 1)情報の定義 2)コミュニケーション 3)情報化社会 4)医療と情報 2.医療と情報 1)看護と情報 2)情報システムの性質 3.情報と倫理 1)情報倫理 2)権利と情報 3)個人情報保護 4)コンピューターリテラシー 4.情報処理 1)インターネット活用 2)調査と情報収集 3) データ・整理 5.コンピューターによる演習 1)基本操作 2)情報処理 (Excel による統計解析)</p>
授業の形式	講義と演習形態とする。
成績評価の方法	課題提出と定期試験を総合して評価する。
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院
メッセージ	受講生の高校で取得したレベルを把握し、理解しやすい授業展開としたい。 配布資料があるので定期試験まで整理して保管のこと。

回	授業主題	授 業 内 容
1	デジタル化入門	デジタル化の背景と現状
2	システム構成	ハードウェア（機器構成）とソフトウェア（各種プログラム）の理解
3	インターネットの起源	広域ネットワークとローカルネットワークについて インターネット技術
4	情報伝達について	情報発信と受信（情報の選別能力） Web の基礎知識
5	デジタル加工について	画像，映像の処理方法と原理
6	電子シートの活用	データのフォーマットについて （数値，文字，画像，映像， etc.）
7	データのまとめ方	各種関数利用
8	データ加工と表示	各種グラフおよび活用について
9	条件付関数利用	関数の複合的活用方法について
10	データ・ベース入門	データ・ベースの設計入門
11	プレゼンテーション能力	形，色の意味とデザイン能力について実践
12	関数と統計（1）	統計の概念について 算術平均，標準偏差
13	関数と統計（2）	t 検定の利用
14	関数と統計（3）	F 検定の利用
15	関数と統計（4）	カイ二乗検定の利用
	学科試験	

教 科 目 名	社会学	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者		講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目的：今日起こっている具体的な社会問題事例をもとに、人間や社会について考察し、社会的なものの見方・考え方ができる力を養う。</p> <p>目標：1.社会の構造および機能を理解する。 2.現代社会の特徴と問題点を理解する。 3.意見の交流を通して、多面的多角的に考える力を養う。 4.技術発達による生活様式の変化、エネルギー問題や環境問題について考える。 5.技術が社会にもたらす影響について、自ら課題を設定し考察できる資質を身につける。</p> <p>内容：1.赤ちゃんポストをもとに現代社会と生命について考察する。 2.エネルギー問題や環境問題について技術論の視点から考察する。 3.沖縄問題をもとに戦争と差別について考察する。 4.貿易ゲームを通して外交・貿易の問題について考察する。</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	レポート形式（記述式）の試験
教科書・参考書	(教科書) 指定しない (参考書) 指定しない
メッセージ	<p>社会科を学ぶ意味として「社会的な見方・考え方を養うことは大切である」と文部科学省は示しながらも、これまで学校で受けてきた社会科（地歴科・公民科）の授業は「先生が一方向的に講義して、それをノートに写して暗記して、それを試験して」というイメージが多いのではないのでしょうか。</p> <p>そこで、この授業では、まず今日起こっている（ニュースで取り上げられている）問題をもとにしました。そして、そこに隠されている構造的な問題を明らかにし、「なぜ、そのようなことが起こったのか。」「自分だったらこう思う。」「こうしたら良いのではないか。」と考え、それを交流していくことを大切にしたいと思います。</p> <p>真の社会的なものの見方・考え方を大切にしたい授業にしていきたいと思えます。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師
1	社会の見方・考え方	社会学の導入として、社会を学ぶことの意義について考える。	
2	北海道を見つめる	昆布を通して、北海道を地理的・歴史的に捉え、社会を構造的に見ることの大切さについて理解する。	
3	生命と社会Ⅰ	赤ちゃんポストの問題について資料をもとに理解する。	
4	生命と社会Ⅱ	『こうのとりのゆりかご』を視聴し、生命について考える。	
5	外交問題Ⅰ	TPP 問題について考える。貿易ゲームをする。	
6	外交問題Ⅱ	貿易ゲームの振り返りをする。外交問題について考える。	
7	戦争と差別Ⅰ	今日の沖縄問題をもとに、戦争と差別の関係性について理解する。	
8	戦争と差別Ⅱ	『9条を抱きしめて』を視聴し、戦争と差別の関係性について構造的に理解する。	
9	技術の進歩と 社会生活	技術の進歩がもたらした、生活の向上を考える。 技術の進歩が社会問題の解決に貢献した事例を知る。	
10	電気技術と社会 技術と環境	「あかり」の進化を通じ、電気技術が社会にもたらした影響を知る。照明機器の特徴を知り、生活様式に合わせて使用法を考える。技術の発達が生社会にもたらした光と影について考える。 技術の発達による環境破壊について知る。 環境を守る技術について知る。 課題の説明：「二つ折ポートフォリオ」政策の目的と意義、 制作方法を知る。自己のテーマを決定する。	
11	技術の発達が生社会にもたらす光と影 (制作Ⅰ)	二つ折りポートフォリオの制作を通じ技術の発達が生社会にもたらす光と影について知る。(※情報収集、構想、制作)	
12	技術の発達が生社会にもたらす光と影 (制作Ⅱ)	二つ折りポートフォリオの制作を通じ技術の発達が生社会にもたらす光と影について知る。(製作、完成)	

13	課題発表	<p>課題発表を通じて自己の考察を深めるとともに、交流を通じて技術と社会に関わる見識を広げる。</p> <p>二つ折ポートフォリオをグループ内で発表する。</p> <p>全体交流</p>	
14	<p>エネルギー 利用の変遷と 社会 原子力技術の光と 影を知る</p>	<p>原子力の功績</p> <p>原子力事故 (VTR)</p> <p>まとめ</p> <p>社会は技術とどのように関わっていくべきかについて考える。</p>	
15	<p>試験 レポート作成</p>	<p>これまでの学習について、レポート形式の試験をする。</p>	

教 科 目 名	心理学	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者		講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目的：人間の知覚、感情、認知、行動、こころの発達を心理学的な立場から広く理解し、人間理解の基盤を形成する。</p> <p>目標：1.心理学の基本理論を理解する。 2.人間の行動とその既成条件との関係を学ぶ。 3.自己及び他者理解に役立てる。</p> <p>内容：1.自分を知る 1)動機づけ一人を動かすもの 2)感情－喜怒哀楽 3)パーソナリティ－その人らしさ 2.「心」の成長 1)ライフサイクル－心の成長/変化/危機 2)カウンセリング 3.「関係」の中に生きる「人」 1)人間関係の中の「自己」 2)対人認知－人をどう見るか 3)「人」と「集団・社会」 4)コミュニケーション－関係をつくる 4.心のしくみ 1)感覚・知覚－外界をどのように知るか 2)記憶－覚えること/忘れることのしくみ 3)学習－経験を生かすこと 4)思考・知能－考えることのしくみ</p>
授業の形式	授業中に説明します。
成績評価の方法	授業中に説明します。
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 基礎分野 心理学
メッセージ	ただ話を聴いているだけでなくグループワーク等を多く取り入れることで、「自分なりに考えること」を大事にしたいと思っています。

回	授業主題	授業内容
1	心理学について	心や心理学とはどういうものかを考える
2	心のしくみ：感覚と知覚	感覚や知覚についていろいろな例を通して学ぶ
3	心のしくみ：記憶	記憶や学習に関する基礎的な考え方を学ぶ
4	学習	
5	自分を知る：動機づけ	感情に関する基本的な理論を学ぶ
6	感情	
7	自分を知る：パーソナリティ1	心理学においての人格の考え方を学ぶ
8		
9	自分を知る：パーソナリティ2	エゴグラムを理解し、自分でも試してみる
10		
11	心の成長：ライフサイクル	心の成長・変化・危機について学ぶ
12		
13	カウンセリング	カウンセリングの基本的な考え方を学ぶ
14		
15	まとめ	
	学科試験	

教 科 目 名	教育学	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者		講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目的：教育が人間や人間形成にとってなぜ必要なのかといった教育の意義、学ぶことの意味を理解し、教育問題や教育が抱える課題といった日本の教育の現状について考える。</p> <p>目標：1.人間形成に必要な教育の意義を理解する。 2.教育と文化、社会の関係を理解する。 3.教育的手法の基本を理解することにより看護と教育の関係を理解する。</p> <p>内容：1.教育とは何か 2.家庭の教育的機能 3.地域社会の教育 4.学校教育の歴史と現状 5.生涯教育と社会教育 6.学校における教育問題 7.教育評価 8.心身障害者の教育</p>
授業の形式	<p>必要に応じて視聴覚教材を用いながら、講義形式で進めていきます。 話し合い、発表の機会もできるだけ多くとりたいと思っています。</p>
成績評価の方法	<p>ペーパーテスト (50%)、レポート (30%)、小レポート (10%)、発表 (10%) の合計点で成績を評価します。</p>
教科書・参考書	<p>(教科書) 毎回プリント配布</p>
メッセージ	<p>質疑応答を講義の中に多く取り入れたいと思っています。 「疑問に思う、考える、尋ねる、人の意見を聞く (聴く)、自分の考えを持つ」 そういったプロセスを大切にしながら「教育学」の中で人と関わることの意義を一緒に考えていきたいと思っています。</p>

回	授業主題	授 業 内 容
1	教育の目的について	教育の目的を問われると「人間形成」が挙げられることが多い。「人間形成」とは何であるのか、多面的に考える。
2	人間の成長への環境の影響 (自然環境・文化環境)	人間の成長は、自己の活動とともに環境からの影響を不可欠の要因にしている。「環境体験」(環境について体験すること)および「環境作用」(環境が人間形成についてはたらくこと)について考える。
3	人間の成長への環境の影響 (人的環境)	
4	家庭教育 (家族という集団について)	社会的集団として「家族」の機能について考える。
5	家庭教育 (現状の家庭と教育の問題について)	日本の家族と社会化について伝統的な文化の問題と現代の社会状況に由来する問題の二面から考える。
6	子どもの社会力 (社会をつくっていく力について)	他人への愛着、関心、信頼が失われている子どもたちの生活の中において、各々の成長過程に必要な大人の働きかけについて考える。
7	学校教育の制度 (日本の学校制度について)	日本の学校制度が明治以降どのような変遷の中で現在の制度が確立されてきたのか考える。
8	学校教育の制度 (他国の学校制度について)	他国の学校制度について学ぶことにより、日本の教育について制度の側面から考える。
9	生涯教育と社会教育	現行の社会教育についてその内容に触れ、その意義について学ぶ。
10	学校教育の課題	「いじめ」「学級崩壊」「学力低下」など学校のかかえる問題について多面的に考える。
11	生徒指導 (「生徒を理解すること」について)	生徒を理解するために教育現場では、カウンセリング、観察、調査等、様々な方法がなされているが、その方法と問題点について考える。
12	教育評価 (意義と目的について)	教育活動の最後のプロセスである教育評価のもつ意義について自己評価の意義も含めて考える。
13	教育評価 (評価の方法について)	絶対評価、相対評価およびテストの作成の仕方について生徒の側からだけでなく、教師の側の立場から妥当な方法について考える。
14	心身障害者の教育 (制度・現状について)	現在、日本で実施されている心身障害者の教育について戦前、戦後、現在とその流れを学ぶ。問題点について考える。
15	心身障害者の教育 (他国の現状について)	先進国、発展途上国、異なるいくつかの国の心身障害者の教育の現状について学ぶ。
	学科試験	

教 科 目 名	家族社会学	単位数 (時間数)	1 単位 (15 時間)
担 当 者		講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目的：社会の中の最小単位である家族を、社会的側面から理解するための理論や方法を身につけ、自分自身の家族環境や患者の家族について想像する力を養う。</p> <p>目標：1. 家族に関する基礎的概念を理解する。 2. 家族を社会的に理解するための理論や方法を学ぶ。 3. 家族に関する変化や現状を理解する。</p> <p>内容：1. 家族とは何か 2. 家族の規範と社会の規範の接合 3. ボランティアと家族 4. 病院における家族への支援 (病院ボランティア) 5. 家族機能と社会的支援 6. 家族病理 (家族の病) (家庭内暴力・DV・幼児虐待等) 7. 「家族」の妄想と「家族」の逸脱 家族の規範はどのように生まれるか 逸脱とは何か ニートやフリーターをどう捉えるか？ あなたは「家族」のなかでどう生きるか？</p>
授業の形式	<p>パワーポイントを用いた講義形式</p> <p>グループワークによる議論 映画をみて家族について考える</p>
成績評価の方法	試験による
教科書・参考書	<p>(教科書) 特に指定しない</p> <p>(参考書) 『大学生と語る性—インタビューから浮かび上がる現代セクシュアリティ』 田村公江・細谷実 (編著) 晃洋書房 「ボランティアへのまなざし」 竹中 健 晃洋書房</p>
メッセージ	<p>わからないことは、積極的に授業のなかで、または授業の前後で、ご自身が納得のいくまで質問をしてください。授業への積極的なかわりを期待します。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	オリエンテーション 家族の基本概念	家族とはなにか、家族の概念について考える。 家族の問題を考える。 社会学において、家族をどのように捉えるのかを理解する。
2	家族の規範と社会規範 の接合	近代化にともなって、家族はどのように社会のしくみの適合して いったのかを理解する。 グループワーク（新聞記事を読んで考え、議論する）。
3	ボランティアと家族	ボランティア行為の源泉となる価値規範は、家族を通じて推移するこ とを学ぶ。
4	病院における家族への 支援	日本における病院ボランティアの家族への支援がどのようなものか を理解する。
5	家族機能と社会的支援	病院ボランティアの活動例の比較
6	家族の病理	DV や児童虐待について理解する。 グループワーク（新聞記事を読んで考え、議論する） ニートやフリーターについて理解し、考える。
7	家族規範を問い直す	家族にかかわる様ざまな規範を理解し、相対化する。 規範を問い直すことにより、なにが解決するかを理解する。 グループワーク（DVD の映像資料を見て、議論する）
	学科試験	

教 科 目 名	英語 I	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者		講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目的：今まで学んできた英語を実践現場でどのように使うか具体例を通して学ぶ。日本語との比較を通し、英語の発想や文化の違いについて学ぶ。</p> <p>目標：1. 看護の現場で役立つ英語の表現や、語彙を拡充し、その定着をはかる。 2. 比較的易しい英語で書かれた読みものを多数読む「多読」を行い、英語を読む力をつける。</p> <p>内容：1. 医療英単語を学ぶ。 2. 看護の様々な状況に応じた表現や会話を学ぶ。 3. 具体的な状況における会話スキットを通じて、発音やイントネーションを学ぶ。 4. 医療に関わる映画を観て、実際の使われ方を学ぶ。</p>
授業の形式	講義形式、演習形式
成績評価の方法	<p>学期末テスト 50% 小テスト 2 回 20%</p> <p>スキットの発表 20% 多読の記録 10%</p>
教科書・参考書	(教科書)新 20 ヘルスケア・ダイアログズ
メッセージ	医療に関わる言葉や会話を学ぶと同時に、イギリスやアメリカのたくさんの絵本を通じ、生の英語にふれていきます。映画も準備していますので、表情、しぐさから察することも学んでいきましょう。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	診療科名と入院	テキスト Unit1-3, 多読
2	患者さんへの質問	テキスト Unit4-6, 多読
3	薬や検査の指示	テキスト Unit7-10, 多読
4	映画鑑賞	小テスト①, Patch Adams 前半
5	映画鑑賞	Patch Adams 後半
6	内科	テキスト Unit11, 多読
7	外科	テキスト Unit12, 多読
8	小児科	テキスト Unit13, 多読
9	歯科	テキスト Unit14, 多読
10	眼科	テキスト Unit15, 多読
11	耳鼻咽喉科	小テスト②, テキスト Unit16, 多読
12	産婦人科	テキスト Unit17, 多読
13	整形外科	テキスト Unit18, 多読
14	皮膚科	テキスト Unit19, 多読
15	泌尿器科	テキスト Unit20, 多読
	学科試験	

*テキスト・・・「新 20 ヘルスケア・ダイアログズ」

*多読・・・やさしい英語の絵本からスタートし、大量に読むこと。

教 科 目 名	保健体育	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者		講義学年・学期	1 年次 通年

学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目的：現代社会における身体・身体運動（スポーツ）・健康・体力の現状を理解するとともに、日常生活での身体運動を実践できる能力を養う。</p> <p>目標：1. 身体運動（体育）・スポーツ・健康の意義・目的と、その役割について学ぶ。 2. 人間形成としての体力の向上、健康の維持について学ぶ。</p> <p>内容：1. 身体・身体運動（スポーツ）・健康・体力の定義とその意義 2. 生涯スポーツとして競技スポーツの実践 3. 生活習慣病予防（体力維持）と健康体操・ストレッチ体操の実践 4. 障がい者スポーツ再考と実践</p>
授業の形式	講義と演習（実技）
成績評価の方法	授業中の態度・レポートの成績、出欠状態などとともに自己採点を参考に評価します。
教科書・参考書	<p>(教科書／参考書)</p> <p>教科書は使用しません。必要な資料は当日配布します。</p>
メッセージ	運動・スポーツを楽しみ、そのことをとおして介護・看護について一緒に考えましょう。

回	授業主題	授 業 内 容
1	ガイダンス及び 専門用語の解説	1. 本学の看護教育における「保健体育」の位置と目的 2. 授業の方法と評価と留意点 3. 体育・スポーツ・健康・体力・身体の定義 4. 自己紹介（自己を語り、他者を知るとは）
2	身体と身体運動を考 える	1. 「脱力の身体」と「緊張の身体」 2. 形態・体力測定の実際 3. 体力トレーニングとストレッチ運動の分担
3	「歩く」運動と ニュースポーツを考 える	1. 「歩く」ことを考える 2. 40分間で歩くコースの作成 3. ニュースポーツの意味とその実践
4	「歩く」運動の実際	1. 作成した歩くコースの試走（歩） 2. ストレッチ運動
5 6	屋外スポーツを楽しむ (1)(2)	1. 硬式テニスとソフトボールを2班に分かれ、午前中テニスをした班は、午後ソフトボールと交互に行う。 2. ストレッチ運動
7	屋外スポーツを楽しむ	1. 20分間走 2. 3角ベースボールを楽しむ 3. ストレッチ運動
8	屋内スポーツを楽しむ	1. バレーボールを楽しむ 2. ストレッチ運動
9 10	屋内スポーツを楽しむ (1)(2)	1. 卓球・バドミントン・バスケットボールの3種目の試合方法などを学生が決め、行う（富良野スポーツセンター）
11 12	子どもの遊びを考 える (1)(2)	1. 遊びとは、運動遊びの構造と機能 2. 幼児期の運動遊びをやってみよう 3. 運動遊びの創作とその実践
13 14	障がい者スポーツと体 操を考える	1. 障がい者スポーツの現状と課題 2. 身体の一部を拘束し、スポーツを楽しむ 3. 体力トレーニングとNHKラジオ体操
15	まとめ	1. 現代スポーツの現状と課題